
笑いたい。

愛花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

笑いたい。

【Nコード】

N5005Z

【作者名】

愛花

【あらすじ】

この主人公、近藤未来はおかしな女の子。
産まれたときからおかしな考えを持った子だった。
そんな子が中学生生活をどのように送っていくのか・・・

〜プロローグ〜（前書き）

今回は未来の過去について語ります
温かく見守って下さいW

くプロローグ

私は、何の為に生きてるんだろう。
何の為に、この世に産まれてきたんだろう。

私は、中学2年生、2年4組こんとどうみらい近藤未来。

私には生きている意味が無い。
生きる理由が無い。

好きな人も居ない。私の事を好きで居てくれる人も居ない。
気持ちが落ち着く場所も無い。

この世に存在したいと思える時、場所、人が無いし居ない。

世間では中学生は青春するだのなんだ言ってるけどそんな物私には
程遠いと思う。

自分はこのままで良いなんても思っていない。

何度も自分を変えようと心みた。

しかし、やっぱり・・・ダメだった。

偉人の名言など呼んで自分を励まそうと思った。

でも、私は他の皆と違うのだ。「いい言葉言うな」など思った事もない。

「何だ、このきれいごとばかり並べている言葉は。」「何の名言を見てもそう思った。

素直に受け止められない。

「偉人だからこんなこといえるんだ。失敗した人はこんな事言えない。」

その言葉が頭の中をグルグル回った。もっと素直に受け止められる自分でありたかった。

もっと小さい、子供の時から私は他の子と考え方が根本的に違かつ

た。

幼稚園の時から私はこんな変な子だった。

いつからこんな子になっちゃったんだろう・・・？それは遠い昔の事だった。

赤ちゃんのころから私は変な子だったんだと思う。

何をするにもずる賢く考えてきたような気がする。

小学4年生の時、私はやはりもう完璧に変な子だった。明るいクラスだったが、私は浮いていた。

はつきり言ってそんな人の見た目なんかどうでも良かった。もう何をしても無駄なもの。

そんなことを思っただけ何もせず生きていた毎日だった。今もそうだけだ。

しかし、やっぱり明るいクラスになじむように私も明るい性格になりたいと思った。

異性にモテたい、注目されたい、勉強を頑張りたい、スポーツを頑張りたい・・・

笑いたいときに、一緒になって笑いたい。

私なんか、小さな夢ができた。それだけで嬉しかった。

しかし、それはただの私の夢で、現実にはほど遠いかった。まず私は勉強をしようと思った。

何も勉強なんてしてこなかった。頑張ろう、ただ努力しよう。

私は見事に勉強が得意になった。私もこのクラスの一員として存在する意味がある日が来るんだろうか！

しかし・・・そんな私の考えはすぐに変わった。

野村怜奈のむらね。うちのクラスの中心的グループの中心（ボス？）で、明るい。

すぐく明るい、勉強もできる、スポーツもできる。彼女いわく「生

まれつき「らしい。

何もしなくても、何でもできるんだそうだ。

私が100点をどんなにとっても、1位になっても、どれほど努力しても・・・

クラスの子が話しかけてくれる事はなかった。

いつも、話しかけられるのは怜奈だった。「怜奈、90?すごい」
私なんか、100なのに・・・私のほうが、上なのに・・・誰か、
気づいてよ・・・誰か・・・誰か・・・

どんなに頑張っても無理な人、何もしなくてもできる人の差を感じたときだった。

やはり、私はダメなのだ。怜奈は何でもできるけど、私は無理なのだ。

何をしてもこんな奴、ダメなんだ、もう・・・やめよう。

怜奈が、こつちを見てくる。ひどく、ひどく楽しそうな顔で。怜奈が、言った。

「アンタと私は違うのよW」

やはり、私は「どんなに頑張っても無理な人」なのだ。

怜奈が憎いなんて思わない。怜奈が羨ましいとも思わない。

ただ・・・ただ・・・自分にむかっていた。

こんな自分に産んだ母を恨んだ。こんな育て方をした家族を恨んだ。

どんなに頑張っても無理な人と何もしなくてもできる人を知ったこの瞬間、当時小学4年生だった幼い私の小さな1つの夢が、消えた。

〜プロローグ〜（後書き）

いきなりパソコンで書き始めましたW

何も考えずに。W

結構うまくできたと思います。

しかしこれは趣味で書いているのでプロになりたいわけじゃないです。

趣味の1つなので温かく見守っていただけると嬉しいです。

コメントお待ちしております！

く厳しい現実く（前書き）

今回は未来の周りの方について書くことかど。W
即興最高ー（笑）

く 厳しい現実く

生きる希望を持っていた時もあった。

その小学4年生までは・・・。

その時、幼かった私は確信した。「もう無理」なのだ。

生きている価値、存在してる意味が無いのに私が生き続けて来た理由はきつと

「生きる希望を持っていた」からだと思う。

生きていれば必ずいいことがある。人生、まだ終わってない。そう考えてきたからだと思う。

もつとも、今はそんな感情少しの少しも無いが。

私は本当に「不幸な人間」だった。

家族。母、父、姉、私、妹の5人家族。やはりベタな展開だ。

姉、妹はできがよく、私1人、こんな変な子なのだ。

この14年間、姉と妹にどれほど侮辱された事か・・・。

母、父は私の存在を無視する。何もしてくれない。親の意味が無い。姉と妹は必要以上に可愛がられ、育ってきた。私が可愛がられていたのは遥か昔だ。

好きな人。告白された事が1度もない私でも、好きな人はできた。

たにくちりようた
谷口涼太。こんな私にも優しくしてくれた。

でも・・・友達と話すのを聞いてしまったのだ。

「近藤？誰だそれ。あーアイツか。アイツさー絶対俺に惚れるよWWWあの顔、見てみWこっちは告られる回数upの為に優しくしてんのかなーWWW」

最悪・・・だった。私は彼を愛していた。愛しさが憎悪へと変わった。わずかな瞬間で。

友達。私は、友達にいじめをされていた。幼稚園のころから、ずっと。

全員で無視されたり、喋りかけたら逃げられたり、遊んでる途中で何も言わずに帰ったり。

本当につらかった。でも耐えるしかなかった。いつか本当の友達ができる事を信じて。

私は、家族、好きな人、友達に失望した。

私をわかっている人が現れる日は・・・来ないのだろうか。

〜厳しい現実〜（後書き）

短いな（汗）

次は長くします〜！

即興の力は強いなと改めて思いました（笑）

次回も読んでいただけると嬉しく思います！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5005z/>

笑いたい。

2011年12月17日00時54分発行